北星女子短大紀要 *Journal of Hokusei Jr. Col. Vol. 37 : 77－84, 2001*

会話分析による録画記録の利用法

～トランスクリプト作成の方法論～

Usability of video-taped materials for conversation analysis: methodologies of making trascripts

水 川 喜 文
Yoshifumi Mizukawa

ABSTRACT

This paper focuses on the usability and the treatment of video-tapled materials of interactions for conversation analysis, which is originated from ethnomethodogy, and explains how transcripts are made for the analysis.

Conversation analysis focuses on sequential organization of interaction in fine detail. Video-taped materials of interaction contain verbal and non-verbal factors, so the following procedures are reasonable for making transcripts.

First, a rough verbal transcript is made, second, silence and overlaps are added in detail, and then eye contacts in detail and relevant body movement are added. Making transcripts are most important for conversation analysis and their exactness is the heart of the analysis. More discussion is made on the usability and treatment of video-recorded data.

Key Words: 会話分析、トランスクリプト、H.Sacks

1．会話分析とトランスクリプト

本稿は、エスノメソドロジー的会話分析のための、トランスクリプト作成手順と方法について説明し、それに関わる議論を行うものである。

会話分析(conversation analysis)とは、エスノメソドロジーに基づいた相互行為を分析する手法であり(Heritage 1984, ten Have 1999ほか)、エスノメソドロジー的会話分析と言われることがある(Psathas 1995)。現在では、会話分析といえば、談話分析(discourse analysis)、プロトコル分析(protocol analysis)などとならんで、録音・録画記録を扱う社会学、言語学などにおける一つの分析・研究手法となっている。

この会話分析は、エスノメソドロジー研究を生み出したH.Garfinkelの発想に導かれた、H.Sacks、E.Schegloff、G.Jeffesonらにより1960年代に始められた。当時としては最新の民生機器である録音機材を活用し、音声による会話を「社会学的」に分析することを開始した。これによって、記憶や例示ではなく、実際に行われた日常的な相互行為における会話を具体的、詳細に分析する手法が生まれたのである。1980年代になってからは、この録音記録の分析法を土台にして、C.Goodwinらにより録画を用いた音声・動作の分析がはじまった(例えば、。これをビデオ分析(video analysis)と言うこともある(Heath 1986:1-24)。

この会話分析のトランスクリプトは、一つの

「関税障壁」と言われることがある（橋爪大三郎 1995　エスノメソドロジー研究会シンポジウムにて）。すなわち、録音テープ、あるいは録画テープを文字化して「トランスクリプト」をつくることが大きな困難と忍耐を要するため、容易に研究を始められるわけではないという一つの壁が存在しているというのだ。しかし、このように言われるのは、会話分析についての発想についての解説や適切なデータ作成の手順についての説明がそれまでなかったためでもあるだろう。

実際、これまで、会話分析の方法についてC.Goodwin (1993) や山崎ほか (1997) などで扱ってはいるが、トランスクリプト作成の詳細について述べたものはほとんどない。本稿では、1998年の日本社会学会発表（水川 1998）のトランスクリプトをもとにして、「身体障害者介助における相互行為のビデオ分析」（平成11年度北海道ノーマライゼーション研究センター調査・事例研究）などのためのトランスクリプト作成の際の経験をもとにして、その作成手順について一つの案を提供していきたい。

2．録画記録のトランスクリプト化

まず、完成型であるトランスクリプト(3)を見てもらいたい。これは、オーケストラの楽譜のように「小」と「介」の相互行為が4つの行がひとまとまりとして書き込まれている（注1）。最初の断片を、下に書き出して検討してみよう（例1）。

例1

小川さん（脳性マヒによる身体障害者）が、介助者と食事を作るために茄子を切っている場面である。右側の「説明」の下の記述は、例示のために書き加えた。

[小：小川さん、介：介助者、n=茄子、o=小川、f=前向き、l=左向き、r=右向き、h=聞く姿勢]

	トランスクリプト	説明
小：	l.f.rrrrrrrrr.f.rrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrr	小川さんの視線
	い　1センチ=　い、1センチくらい	小川さんの発話
介：	nnn.ooo..n.oooooooooooo..hhhhhhhhhhhhhhhhhhhhhhh	介助者の視線
	=ん	介助者の発話
	*写真1　*写真2	写真の箇所

一見するとかなり複雑である。しかし、右端に加えた説明を見ながらこれを一つのオーケストラの楽譜のように読んでいくと何が書いてあるかわかってくるはずである。

このトランスクリプトにある会話と（視線を中心とした）行動を再現してみると、まず、小川さんは、左、前、右と視線を動かしながら、「い、1センチ」と発話する。そうすると、次の瞬間に介助者が「ん」と言って聞く姿勢をとると、小川さんが右向きのまま「い、1センチくらい」と発話している。

この録音記録の会話分析的なトランスクリプトを作成する上で必要なのは、次の要素である。

1）音声トランスクリプト

音声は、沈黙、オーバーラップ、発話終了時の同時開始などを含めたものが必要である。

2）視線トランスクリプト

場面の参加者がどこに視線を向けているのか詳細に記述する必要がある。

3）身体トランスクリプト

場面にレリバントな進退動作を書き込む。この場合、何がレリバントかということが問題で

あるので、全ての行動を書き込むことよりも参与者にとって「いかに見えるか」という点が重要である。

現在のところ、1）の音声トランスクリプトを作成する際の記述方法は、J. M. Atkinson and J. Heritage(1984)などを標準的な方法とする場合が多い（注2）。しかし、2）の視線のトランスクリプトや身体トランスクリプトについては、論文ごとに定められているのが現状である。例えば、前掲書でC. Goodwinは行った分析では、相手に視線が届いた時を「X」として、視線を向けていることを「X_____」のようにトランスクリプトを作成している。しかし、これでは視線を話し相手以外に向けている場合が記述できないし、もとより視線開始の「X」は下線の始まったところであるから必要ないことになる。いずれにせよ、視線や身体動作の記述法が標準化されないのは、その論文がどこに注目したかによって記述方法が変化してくることによっている。

3．トランスクリプトのための手順

最後に、トランスクリプトを作成する際の具体的な手順を述べていきたい。容易に考えられることだが、一気にトランスクリプト3の段階まで作成するのではなく、次のように3つに分けて作成すると効率的である。

第1段階：言葉のレベルでの書き起こす。いわゆる「テープおこし」の段階。
第2段階：沈黙、重なりなど音声レベルで詳細化したトランスクリプト。
第3段階：身体レベルの動きも含めたオーケストラ的なトランスクリプト。

各段階別の注意点を述べていきたい。

まずは、第1段階は、トランスクリプト(1)をみてほしい。

■トランスクリプト(1)　第1段階　（小川さん、調理介助場面）
小：小川さん、介：介助者、

小：ご、ごはん炊ける

小：　い　1センチ　　い、1センチくらい
介：　　ん

小：　　いっ　　くらいにきると　　い、いくつくらい切れるかなあ
介：　2センチ　　1センチ　　ええ

小：　　う おお
介：　1センチくらい　　どうでしょう　みてくださいははは

小：　10個くらい切れるか　10個も切れないかな

基本的には、二人のターン（発話順番）を並行して書いていくことになる。つまり、二人の会話が重なったり、うなずきあったりしているところは、人数分の行に分けて書いていく。たとえば、小川さんが「い　1センチ」と言った直後に、介助者が「ん」と言って、その後に小川さんが「い、1センチくらい」と言った部分は、上記のように記述することになる。ここでは「センチ」の次に「ん」と書いて、その後に「い、1センチくらい」と発話していることがわかるように書いてある。この段階では、基本的にはテープおこしにしておき、詳細に入っていかない。

もちろん、発話ごとに行変えをしてターン（発話順番）ごとに書くことも可能だが最終的にオーケストラ形式にするのなら、ターンごとに書くことはないだろう。

第2段階は、トランスクリプト(2)である。

■トランスクリプト(2)　第2段階　（小川さん、調理介助場面）
□小川さん（4年目、脳性まひ、自由に動かせるのは指先だけ）
小：小川さん、介：介助者、

((介助者は野菜を切っている。))
小：ご、ごはん炊ける
((カメラ移動。茄子の調理法についての場面))

小：　い　　1センチ=　　い、1センチくらい
介：　　=ん

小：　　(いっ)　　くらいにきると=　　い、いくつくらい切れるかなあ
介：　2センチ　　1センチ　　=ええ

小：　　(は)い　う　おお
介：　1センチくらい　　どうでしょう　みてくださいははは

小：　　(.)10個くらい切れるか　10個も切れないかな

ここでは、音声データがより詳細になっている。発話のオーバーラップ、発話終了と同時の発話開始などが付け加えられている。あいまいな言葉もカッコに入れて書き込んでいる。この段階で、音声データの部分がすべて書き込まれることになる。

最後に、第3段階は、トランスクリプト(3)となる。最後のデータを参照してほしい。

ここでは、視線の動きを全てとらえて、レリバントな身体動作を加えることになる。トランスクリプトの目標は、基本的に「見てわかる」ことにある。身体動作の記号化は、いくらでも可能であり、その場面と全くレリバントではない行動まで（たとえば、ある場面でのまばたき）記述することにもなりかねない。しかし、相互行為の中での実践を記述するというエスノメソ

ドロジーの基本的な発想に立ち戻れば、身体動作記述の詳細化はその場面にレリバントであるかということを基準にして検討されるべきものであろう。

おわりに

これまで会話分析におけるトランスクリプト手法について説明・紹介してきた。会話分析のトランスクリプトが「関税障壁」としてあるのではなく、統計手法による社会調査法のように、手法として確立していけば、誰でもアクセスできるアカデミックなリソースとなるだろう。そのために、このような調査方法の明確化や開示は、研究法の開示という意味でも今後も必要となってくるだろう。

■データ

■トランスクリプト(1)　第1段階　（小川さん、調理介助場面）

小：小川さん、介：介助者、

小：ご、ごはん炊ける

小：　い　1センチ　　い、1センチくらい
介：　　ん

小：　　いっ　　くらいにきると　　い、いくつくらい切れるかなあ
介：　2センチ　　1センチ　　ええ

小：　　う おお
介：　1センチくらい　　どうでしょう　みてくださいははは

小：　10個くらい切れるか　10個も切れないかな

■トランスクリプト(2)　第2段階　（小川さん、調理介助場面）

□小川さん（自立生活4年目、脳性まひ、自由に動かせるのは指先だけ）

小：小川さん、介：介助者、

((介助者は野菜を切っている。))
小：ご、ごはん炊ける
((カメラ移動。茄子の調理法についての場面))

小：　い　1センチ=　　い、1センチくらい
介：　　=ん

小：　　(いっ)　　くらいにきると=　　い、いくつくらい切れるかなあ
介：　2センチ　　1センチ　　=ええ

小：　　(は)い　う　おお
介：　1センチくらい　　どうでしょう　みてくださいははは

小：　　(.)10個くらい切れるか　10個も切れないかな

■　トランスクリプト(3)　第3段階（小川さん、調理介助場面）
□「自分らしく暮らしたい～名古屋・重度障害者の自立生活～」
　NHK教育『列島福祉リポート』(1997年7月7日放映)
□小川ん（自立生活4年目、脳性まひ、自由に動かせるのは指先だけ）
[小：小川さん、介：介助者、n=茄子、o=小川、f=前向き、l=左向き、r=右向き、h=聞く姿勢、(()内は説明]

((茄子の調理法の場面))

小：　l.f.rrrrrrrrr.f.rrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrr
　　い　1センチ=　　い、1センチくらい
介：　nnn.ooo..n.oooooooooooo..hhhhhhhhhhhhhhhhhhhhhhh
　　=ん
　　*写真1　　*写真2

小：　rrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrrr　rrrrrrrrrrrrrrrr.f.lllllllll
　　(いっ)　　くらいにきると=　　い、いくつくらい切れるかなあ
介：　.oooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo.nn..rrrrr
　　2センチ　　1センチ　　=ええ

小：　----------rrrrrr...f..lllllllllllllllllllllllllllllllll
　　(は)い　う　おお
介：　fffffffffffffffffffffff..ooo..nnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnn
　　1センチくらい　　どうでしょう　みてくださいははは
　　*写真3　(茄子を前に掲げる)

小：　nnnnnnn..f.rrr...nnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnn
　　(　.　)10個くらい切れるか　10個も切れないかな
　　nnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnnn

((首の動きに合わせて茄子を動かす))

写真1

写真2

写真3

注

＊本稿は、次の研究助成の成果の一つである。「2000年度北星学園女子短期大学特別研究費」

1）もちろんトランスクリプトを実際に作る際にはビデオテープを参照しながらつくることになるのであらかじめ何がおこっているかはわかっているはずである。ちなみに、transcripitonには、編曲という意味もある。

2）音声トランスクリプトで多用されるのは次の記号である。

[　同時発話（会話の重なり）開始

]　同時発話（会話の重なり）終了

=　継続発話。前の人の発話終了と同時に次の人の発話が開始

(0.5)　沈黙の秒数表示

(.)　短い間(おおむね0.1秒以下)

((説明))　二つの括弧に囲まれた文字は、場面の説明を書き入れたもの

:　長音。日本語の場合「ー」で代用する場合もある

。　日本語の句点、英語のピリオドは音程が下がっていることを示す

?　音程が上がっていることを示す

文献

阿部耕也　1997「音声データ分析と会話分析」北澤毅、古賀正義編著『〈社会〉を読み解く技法』、福村出版。

Atkinson, J.M. Heritage, J. 1984 *Structures of Social Actions*, Cambridge University Press.

福岡安則 1995「技法としての生活史聞き取り(1)」『解放社会学研究』9:163-192、日本解放社会学会。

福岡安則 1996「技法としての生活史聞き取り(2)」『解放社会学研究』10:73-107、日本解放社会学会。

Goodwin, C. 1981 *Conversational Organization*, Academic Press.

Goodwin, C. 1993 "Recording Human Interaction in Natural Settings" in *Prag-*

matics 3(2): 181-209.

Have, P. ten 1999 *Doing Conversation Analysis: a Practical guide*, Sage

Heritage, J. 1984 *Garfinkel and Ethnomethodology*, Polity Press.

水川喜文　1998　「日常生活介助における相互行為の実践学　～脳性まひ者の自立生活から～」第71回日本社会学会大会一般研究報告（於：関西学院大学）11月23日

西阪仰　1997　『相互行為分析という視点』、金子書房。

岡田猛　1997　「発話の分析」、中澤潤、大野木裕明、南博文編著『心理学マニュアル観察法』、北大路書房。

Psathas. G. 1995 *Conversation Analysis*, Polity Press.

山崎敬一ほか　1997　「ビデオデータの分析法－ビデオとコンピュータを利用した新しい分析法－」 in 山崎敬一・西阪仰編

山崎敬一・西阪仰編　1997　『語る身体・見る身体』、ハーベスト社。

資料：

「自分らしく暮らしたい～名古屋・重度障害者の自立生活～」NHK教育『列島福祉リポート』（1997年7月7日放映）

EMCA Newsletter

http://www.pscw.uva.nl/emca/index.htm